

INTERVIEW

有田市立病院 管理者
加藤正哉先生



地域の病院としての役割を 果たすために。

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

脳外科医として地域へ

山田隆司(聞き手) 今日、和歌山県の有田市立病院に管理者の加藤正哉先生を訪問しました。ここは4月から地域医療振興協会が指定管理者として運営を開始し、先生に管理者として着任していただいたわけですが、まずは先生のこれまでの経歴を簡単に紹介していただけますか。

加藤正哉 私は自治医科大学の宮城県5期卒業です。宮城県は当時、国立仙台病院が研修病院だったので、2年間そこで研修しました。1年目は内科、外科、産科、小児科をローテーションした後、2年目は希望の診療科を選択できたので、半年間脳外科を回ったことでその面白さと忙しさに魅了されました。

初期研修を終えて3年目に地域に派遣される時に、気仙沼市立病院に脳外科が開設されるタイミングと一致した幸運に恵まれ、県からの派遣ではありましたが、東北大学の医局に入って、指導医と一緒に脳外科医として気仙沼市立病院に赴任させていただきました。

山田 指導医と先生の2人だけですか。

加藤 実は宮城県同期の鈴木晋介先生も脳神経外科志望だったので、指導医と私と鈴木先生の3人体制でした。

気仙沼市立病院には3年間在籍しましたが、その間気仙沼と東北大学を3~6ヵ月ごとに行ったり来たりして、大学病院での臨床や研究

にも関わらせてもらいました。その後、後期研修として東北大学に1年間戻った後、脳神経外科医の専門医を取得しました。自治医大の卒業生は義務年限中に専門医を取得するのは難しい場合が多いのですが、私は恵まれていて、他大学卒業の先生と同じタイミングで専門医を取ることができました。その後、七ヶ宿町国民健康保険診療所に2年間、赴任しました。

山田 七ヶ宿町診療所は私も何回か代診で行きましたが、山形県高島町との県境にあって自然に恵まれた良いところですよ。脳外科の専門医を取ってから一人診療所へ出たわけですね。

加藤 はい。卒後7、8年目でした。最後の9年目は公立佐沼病院(現 登米市立登米市民病院)に脳

外科開設のために医局から派遣され、今回は一人脳外科科長として赴任しました。一人だったので外科の先生に手伝っていただいて手術もしてはいましたが、そこでは未熟で何もできなかったという思いがあります。

山田 その1年で義務は終了したわけですね。義務明けはどうされたのですか。

加藤 東北大学の脳外科の人事で、福島市の大原医療センターへ脳外科医として赴任しました。4人体制の3番目という立場でしたが、緊急を含めて手術もたくさんさせていただき、そこでようやく脳外科医らしい仕事ができたと感じました。

自治医大救急科の立ち上げ

加藤 その2年後に自治医大に戻る機会が訪れます。当時は多くの大学病院に救急診療部門が設置された時期で、自治医大でもこの年に東京大学を退官された沼田克雄先生をお迎えして、新しい救急医学講座と救急部が作られました。このスタッフとして声をかけていただいたことで卒後11年目に母校に戻った次第です。

山田 救急科の立ち上げのために自治医大に戻られたのですね。

加藤 救急医学講座開設が1992年4月で、私が加わったのは9月からになります。自分は脳外科医として救急診療に関わっていくつもりでしたが、10年以上自治医大の脳外科の先生方とは接点がなかったので、最初の半年は脳外科に所属させていただいて顔つなぎをしてくれ、と沼田先生に配慮していただいたのが、その後大

変役に立ちました。

山田 当時の救急は、脳外科や消化器外科、循環器科、麻酔科などといったいろいろなバックグラウンドを持った人たちが集まって成り立っていましたよね。

加藤 そうですね。教授の沼田先生が麻酔、それから循環器の夏目隆史先生、麻酔・集中治療の鈴木正之先生、消化器外科の安田是和先生を中心に口腔外科や地域医療講座からもたくさんの先生方に手伝っていただいて始まったと記憶しています。

私自身の脳外科医としての経歴は、東北大学を離れた関連病院ではもっぱら脳卒中や頭部外傷等いわゆる一般脳神経外科診療に従事していましたが、大学での臨床や研究では定位脳手術などの機能外科をやっていました。佐藤文明先